

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670700364		
法人名	株式会社 アールアイエス		
事業所名	洛和グループホーム太秦 1F		
所在地	京都市右京区太秦袴田町9-1		
自己評価作成日	平成26年9月3日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700364-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2670700364-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年10月1日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のその人らしさを大切に、お一人お一人の状態に合わせた個別ケアを実施している。これまでの生活を、可能な限り継続できるよう、ご本人・ご家族からの情報を活かしながら支援している。またその個別ケアを実施していく中で、地域住民との交流を少しでも増やせるよう、外出の機会も多く作っている。室内においても廊下を歩いたり、ラジオ体操をしたり、運動の機会を作り、現状の維持向上に努めている。また、健康維持促進の為に毎食後の口腔ケアの実施も行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、広い玄関ポーチに毎日利用者が椅子に座って集い、歌やレクリエーションを職員と楽しんでいます。フロアや浴室など綺麗に清掃がなされ、生花やセンスの良い手作りの飾り付けで家庭的な温かい雰囲気作りが工夫されています。開設10年が経ち、経過と共に利用者が重度化する中、一人ひとりに一番大切なことを職員間で考え、食事形態や排泄支援など個々に合った対応を検討しながら取り組んでいます。玄関・ユニットは、ともに開錠いつでも出掛けられる安心感を持ってもらい、利用者の行動を止める言葉を使用しないなど自由で落ち着いて寛げる生活を提供しています。外気浴や地域への外出の機会も多く、ゆったりと接する職員との関わりで利用者も穏やかな表情で笑顔で過ごされ、理念にある和のつながりと地域の中での居心地の良いケアが実践されているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と居心地の良いケアを求めて との理念を掲げ、その理念を各ユニット玄関に掲示している	ホームの理念は見易く掲示し、ホームが大切にしていることとして会議で説明し、職員への浸透に努めています。自分が利用したいホームを目標に、それぞれの職員がテーマを決めて利用者に関わり、会議や振り返りシートで理念に沿ったケアがなされているかを話し合い、実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に参加してもらえるような行事を企画している 利用者と散歩に出かけた時には、挨拶だけでなく気楽に立ち話をするよう心がけている	毎年太秦まつりを開催し、地域の方々に声をかけたり、中学生に演奏にきてもらったりしています。また敬老のつどいに利用者が招かれ出掛け、近隣の保育園児とも定期的に交流しています。ホーム主催で地域に向けて認知症講座を開きホームへの理解が深まるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開いている 町内の回覧板にグループホームからのお知らせを載せていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、会議を開催しており、対象月の現状・行事の報告、また事故の報告をし、その際に事故対策も同時に報告している。地域でのイベント等の情報をもらい参加に繋がっている。	会議は、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催しています。ホームから状況報告を行い、参加者から地域情報やイベントを知らせてもらったり、消防訓練について家族からアドバイスをもらっています。会議の開催は全家族に参加の呼びかけを行い、議事録も配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進鍵の議事録を持参する等、関係作りに努めている。	管理者は書類の提出時に担当者と話し、連携できる関係性を作るようにしています。制度的な質問や相談は法人の統括が行っています。市から研修情報がファックスで送られ、福祉課の担当者とは訪問時に状況報告を行い、連絡を密に取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待マニュアルがあり、また研修に参加している	年1回、身体拘束を含めた人権研修が法人内であり、代表者が受講して伝達研修を行っています。日頃のケアの中でも、制止に繋がる言葉かけがないか、注意喚起を行っています。玄関、ユニットは共に開錠し、鍵をかけない暮らしが普通であるよう家族にも説明し、閉塞感のない自由な暮らしを提供しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば参加し、日々職員間で注意をはらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し、学ぶようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に口頭と書面にて十分な説明をおこなっており、改定等あればその都度説明をおこなっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入り口に意見箱を設けている 家族には年に1回アンケート調査を行っている 運営推進会議で外部者へ話せる機会がある	毎月個別の便りを家族に送ったり電話で近況を知らせることで、コミュニケーションが取りやすくなるよう努めています。面会も多く、要望を聞いた際は、速やかに職員間で話し合い、改善に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットカンファにて、ケアプラン以外の業務に関する意見も聞き、反映させている。その他早急性があるものはその場で意見をききその都度反映させている 定期的に面談を行なっている	毎月の会議では活発に意見交換が行われており、個別のケア方法についての提案が多く出され、排泄の自立支援などを話し合い実践しています。脱衣場にエアコンが欲しい等の設備面の意見があり、法人に挙げて改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員の力量評価と希望調査を行い面談している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を活用し、力量に応じた研修参加の機会を設けている。また、それ以外の専門に応じた研修の機会もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を通し、交流の機会を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなく現場の職員も同行し、ご本人から話を聞く機会をつくっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時から、相談員だけではなく現場の職員も同行し、ご家族からも話を聞く機会をつくっており、また入居後も面会時に近況報告をするなど、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族・ホームがそれぞれできる事を話し合い、協働できる案を探し出している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である意識を職員が持ち、日々の家事等について、意見をもらえるような雰囲気作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、職員が家族へ利用者の様子を伝える手紙を書いている。本人と家族をつなぐ役目をしており、それによって家族が知らなかった事も含めて本人の再発見につながる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、ご家族だけでなく親戚等も含め、連絡先がわかる方への連絡を希望され時はその都度支援している	利用者の友人や知人の来訪があり、希望する場所でゆっくりと過ごしてもらっています。また個別外出の機会を設け、馴染みの喫茶店や自宅に帰ったり懐かしい場所に出掛けたりしています。毎月の寺参りを習慣にしている方には、家族との外出準備の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、会話の取次ぎなどを行うことでコミュニケーションが図れている また、レクリエーションなど、興味の持てることは他利用者交え一緒に楽しめるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要とする利用者・家族には相談・支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、希望や意向を引き出し、把握するよう努めている。また、ご利用者の思いを、専用用紙を用いて全員で作成し、1枚にまとめ自分以外が感じるその利用者の思いを共有できるようにし、ケアにつなげている。	入居時の面談で利用者・家族から生活歴や暮らしの意向、好み等を聞きフェイスシートに記入しています。入居後は様子を観たり家族から聞いて、アセスメント用紙に思いに繋がる言動を記載しています。職員間で情報を共有しながら、常に意向に沿ったケアになるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方や生活歴などの把握が出来ている。また日々の会話からも把握したことは職員間で共有できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、状態把握・ケアへの反映を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々の会話、家族からは面会時に話を聞き、それにプラスするかたちで、各職員の意見を加え、今の現状にあった介護計画を作成している	アセスメント用紙や本人・家族、医療関係者の指示が記載された希望用紙を参照し、カンファレンスで分析シートから課題を抽出して介護計画を作成しています。モニタリングは3ヶ月に1回、見直しは半年～1年で行っています。見直し期間に合わせて振り返りシートを作成し、カンファレンスで職員の意見を聞いて「私の気持ちシート」をまとめ、全員が関わる計画になるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記入すると共に、日々申し送りや申し送りノートの活用で共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を見極め、柔軟に対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り支援につなげている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も希望があれば、長年慣れ親しんだかかりつけ医を利用できるよう支援している また入居途中でもニーズに応じ対応している 24時間の医療連携をしている	入居の説明時に従来のかかりつけ医の継続ができることを伝えています。協力医以外の定期受診は家族対応ですが、結果は直接口頭で聞き状態を把握しています。ホームの協力医の受診は月に2回あり、変化があれば個別に電話で報告し、合わせて書面でも伝えています。看護師の訪問が週1回あり、歯科、皮膚科の往診も必要に応じて受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けている 24時間の医療連携をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と、職員で連絡を取り合い、相談しやすい関係作りに努めている。出来るだけ早期に退院できるよう情報交換し、退院準備に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期について話し合い、家族の希望を繰り返し確認しながら、臨終に立ち会える医師を探すなどを行なっている	入居時にホームの看取り指針について説明しています。利用者の状態が変わった時にはかかりつけ医を交えて話し合い、看取りの希望があれば対応可能な地域の医師に繋げています。職員は法人研修の中で看取り支援について学んだり、経験した事業所から事例を聞くなどして前向きに捉え方針を共有し、希望があればいつでも受け入れるよう体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員救急救命の講習会を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2ヶ月に一回、独自で実施 年2回、消防署職員立会いで訓練も実施している	避難訓練は毎回テーマを決めて行い、それぞれの場面でイメージできるようにしています。消防署立ち合いの場合は訓練後に受けたアドバイスや指導を報告書にまとめて全職員に伝えています。訓練状況については運営推進会議で報告し、家族と地域包括支援センター職員が訓練の見学に来ています。ホームの各階に防火扉が備わっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった関わりを職員一人一人意識しながら対応をしている また研修やカンファレンスの中でも学べる機会を作っている	職員は法人の研修を受けたり、管理者がカンファレンスで尊厳や言葉遣いについて折に触れ話し、個々の尊重について理解を深めています。常に目上という意識を持って接する事や排泄介助時の声の大きさ等に注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるような声掛けを行っている 献立を一緒に考えたり、また「何が良いですか？」では決定が困難なご利用者には、2～3種類を提示し、「どれが良いですか？」と選びやすいよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るかぎり各利用者個人のペースを大切に希望にそえるような支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に本人が好んで着用される洋服を持参していただき、外出時はその時に各利用者が希望するおしゃれ(洋服・帽子)ができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ献立を一緒に考え、各利用者にあつた食事準備を共に行っている(下ごしらえ・味付け・盛り付け等)	食材が業者から届き、献立はその都度利用者と一緒に考えています。献立内容や調理の手伝いは利用者が決めたり手伝う気分になる声かけや場面作りを行い、楽しんで調理に携わってもらうよう配慮しています。手作りの食事を職員と一緒に団欒しながら食べ、時には外食企画としてホテルのレストランや寿司屋へも出掛け食事を楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあわせた状態把握をし個々にあつた食事の提供に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科医の健診を受け、必要な方には歯科衛生士による口腔ケアを受け、またその指示に従って、適宜、歯磨きやうがいをしている 1日3回の口腔ケアができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンにあわせた、排泄の声掛けや介助を行っている	トイレでの排泄を基本とし、出来るだけ布下着ですごせるようタイミングよく誘導したり尿意のしぐさに気付いて声かけを行っています。少しでも自立に繋がれるよう話し合いの機会を持ち職員からの提案が多く出され、排泄の自立が利用者の自信に結び付くことを意識しながら、個々に合わせた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者にあつた便秘予防(水分摂取方法)を職員で検討し水分を多く摂ったり、食事内容で便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	毎日、各利用者の希望に添えるよう入浴の支援をしている 拒否があれば、それで終わるのではなく、声掛けの方法を変えたり、また声掛けをする職員を交代している	入浴は午後からの時間帯で、利用者の希望や落ち着かされているタイミングをみて声かけを行い、気持ちよく入ってもらえるよう配慮しています。拒否傾向の方には、気持ちを受け止め足浴から始めたり、焦らずゆっくりと慣れてもらえるよう関わっています。入浴剤やゆず湯を取り入れたり、浴室や脱衣場はきれいに清掃、整頓され心地よく入浴できる環境整備がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の日々の状態を見極め、状況に合わせて、休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書をわかりやすくまとめ、事務所内にて保管し、いつでも誰でもすぐに確認できるようにしている 服薬はマニュアルに沿って実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者に合った、役割を考え支援している 役割や楽しみについてもケアプランにて、職員が共有できている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態や希望に合わせて、外出の支援に努めている 普段行けない場所へは、日頃の本人との関わりの中からリサーチしたり、家族に相談し個別行事として、年に1回行ける様支援している	毎日玄関の庭先で利用者と職員が椅子に座って集い、歌を歌ったり、ゲームをして楽しんでいます。グループや個別で近隣への散歩や、ドライブ、買い物にも日常的にでかけています。その他花見や初詣、水族館への遠足など外出の機会を多く設け、気分転換を図れるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	また外出時に買い物ができる場所では、職員と一緒に買い物を楽めるよう利用者の力に合わせた支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	架電希望があればその都度支援している 利用者が書いた年賀状や、手紙についても希望に応じ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒にリビングや玄関に季節の花を飾ったり、季節に応じた作品などの飾り付けを行い、暖かく居心地の良い環境づくりに努めている	フロアには常に生花を飾るよう配慮し、季節の壁飾りも幼稚にならずセンスよく工夫して掲示されています。大きめの加湿空気清浄機を設置し、臭気や換気、温湿度に留意しています。廊下に手作りの飾り棚を設置したり、奥の静かな場所にソファを置いて家庭的な雰囲気作りや居心地の良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にイスやベンチ、テーブルを置き、リビング以外にもくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、今まで使用してこられた部屋がグループホームでも再現でき、安心して過ごして頂けるよう、入居時またはその都度生活用品の搬入を依頼している	居室の表札にはそれぞれ違った飾りを付け、分かり易くしています。入居時にベッド、たんすなどの家具はできるだけ馴染みの物を持ち込んでもらうよう家族に相談し、鏡台や花、ぬいぐるみ、家族の写真等、好みの物や大切にしていた品が飾られ、個性的で安心して過ごせる居室作りに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は、個別に個性のあるものにし、分かりやすい工夫をする事で自立支援に繋がっている		